

令和5年3月27日(月) 14:00～
大山崎町役場 中会議室(3階)

1. 開会

2. 審議

(1) パブリックコメント結果について

(事務局説明、質疑・意見なし)

(2) 計画について

(事務局：【資料1】、【資料2】に沿って説明)

委員：委員になるまで自殺対策計画を知りませんでした。計画名に「自殺対策計画」がないと行政が自殺対策に取り組んでいることがさらに見えにくくなるのではないのでしょうか。

町民はこれだけの厚さの冊子に目を通すことは難しく、そのために概要版があるので、それをいかに届けられるかが重要です。地域福祉に関心を持ってもらうために、ホームページやTwitter、LINE等を利用し、頻繁に周知するのがよいと思います。例えば京都府のように、計画の内容を切り取り8つの目標を1つずつ簡単に見やすく周知する等が必要です。生きがいを持って生きていくのが大事というメッセージが今求められていると思います。

事務局：計画名は私たちも悩んでいます。向日市では「地域福祉計画」と「自殺対策計画」を併記しています。今回は自殺対策計画を地域福祉計画に含む流れを表すために、名称から自殺対策計画を外すことを考えました。しかし全員に伝わるのが一番大事ですので、2つの名称を並べる方が分かりやすいというご意見があれば、仮称(「第3期大山崎町地域福祉計画及び自殺対策計画」)に戻すことは可能です。自殺対策について考えたい方が、この計画を見ればよいと判断できないことも考えられます。両方の計画とも地域福祉の内容ですので、どちらが分かりやすくメッセージを伝えられるかということです。また、第3期(地域福祉計画)と第2期(自殺対策計画)の両方が計画名に入れば、第3期大山崎町地域福祉計画(自殺対策計画)も考えられます。

自殺予防週間や自殺対策強化月間、イベント等も活用し折に触れて概要版のPRが可能です。ホームページに出して終わりではなく、タイミングを見て広く周知していきます。

委員：大山崎町は自殺が少ないそうですが、亡くなった方だけが数字として出ており、未遂

の方はどれくらいいるのでしょうか。「自殺」はネガティブな言葉でありあまり身近に感じられにくいですが、知っておく必要があり、周知をお願いします。

委員長：計画名について他の委員の皆様の意見はいかがでしょう。

委員：前回計画の続きであれば、「第3期大山崎町地域福祉計画（自殺対策計画）」がよいと思います。

副委員長：子どもでも不登校の方もいるし、長引けば自殺に繋がる可能性もあります。また、高齢者でも自殺する方がいます。「自殺」はショッキングな言葉ですが、皆で考えるべきと知らせるために計画名に自殺対策計画を入れた方がよいのではないのでしょうか。地域福祉計画に含まれているというだけではインパクトがありません。

委員長：委員の皆様のご意見としては「第3期大山崎町地域福祉計画（自殺対策計画）」がよいということですが、いかがでしょうか。

委員：単純な括弧書きでは地域福祉計画全体が自殺対策計画という印象を受けるので、「(含む自殺対策計画)」等一言付け加えるのがよいと思います。

事務局：「第3期大山崎町地域福祉計画（自殺対策計画含む）」と表記するというのでしょうか。他の自治体の計画でそのような表記はあまり見ませんが、できないことはありません。実際に計画の位置づけに自殺対策計画が地域福祉計画に含まれると書いており、それを計画名でも表記するかどうかです。仮称でも同じ受け止められ方をする可能性はあります。

委員：町民が最初に目にするのは概要版でしょうか。表紙に「第〇期」等を入れるよりも、自殺対策計画という文言は加えて、これからの大山崎町の計画ということを目で分かるようにしてほしいです。見る人の目線で分かりやすくしないとダメです。表紙に何も関心事がなければ見ようと思わないので、表紙が一番大事です。町の取り組みが頭の片隅に残れば、それが役立つ場面で思い出せます。本編はなかなか読まれないと思います。

委員長：概要版は理解しやすい計画名にするということでしょうか。

委員：「第〇期」が気になるなら、そこを変えてはどうでしょうか。

事務局：本編の名称は「第〇期」を残したいですが、概要版は取っても問題ありません。表紙の見せ方はコンサルタントと調整し、吹き出し等で取り組みが分かるようにします。

幸山委員：「第〇期」はいままでどの期間で取り組んできたのかということで必要かもしれませんが、確かに概要版の名称になくてもよいですね。親しみのあるキャッチコピー等を目立たせて、「第〇期」を入れた計画名は下に小さく書くのはいかがでしょうか。QRコードを入れる等、もっと手に取りやすいきっかけがあるとよいと思います。

事務局：スケジュール的に皆様にもう一度お伺いできないので、8章立ての計画から抜粋したキーワード等を吹き出しにして前面に見せ、表紙を見ただけで計画の内容が分かるように工夫するというご一任いただけますでしょうか。

委員：概要版の名称に自殺対策計画は入れるのでしょうか。

事務局：本編と概要版で名称を合わせます。提案では計画名から「自殺対策計画」を削除しており、概要版も合わせています。本編と概要版の名称が異なり整合が取れなくなることを危惧しています。しかし概要版の表紙を分かりやすくする考えが欠けていましたので、吹き出しで補足できれば、名称は一致させるのが望ましいです。大きな趣旨はどう概要版を手にとってもらい、そこから計画本編に興味を持ってもらうかということです。

委員長：町民も混乱しますので、名称は一致させるのがよいと思います。見せ方や紙の大きさ等、体裁は様々なバージョンが考えられます。

委員：概要版が住民の手に届く工夫があればよいのではないのでしょうか。どのようなツールを使って概要版を手にとってもらえるようにするかが重要です。

委員長：計画名は「第3期大山崎町地域福祉計画」まで決定しましたが、あとはどのようなのがよいのでしょうか。括弧ではさむか、「・」で繋ぐか、その他に案があればお願いします。

委員：「第3期大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画」がよいと思います。これ以降の計画で名称が変わることはありますか。

事務局：国から計画を分離する方針が出ない限り変わりません。委員の皆様にご同意いただければ「第3期大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画」に決定しますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

委員長：「第3期大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画」で進めていただくようお願いいたします。概要版は名称を一致させ、住民に手に取ってもらえるような表紙の工夫は事務局に一任します。

委員：成果目標は現在の数字も分かるとよいと思います。

事務局：総合計画から引用した数値と今回の計画策定のためのアンケートの集計結果から立てた数値の2つがあります。総合計画の調査は2年前であり、年度が揃わないため目標値のみ掲載しています。

委員：把握できている数値だけでも入れられませんか。

事務局：本編の4頁以降の第2章に大山崎町を取り巻く現状の数値を載せています。成果指標を全て載せるのは難しいです。

委員長：ゴールだけでなく経過を見るためにも数値の推移は分かった方がよいので、課題として持っていてほしいです。また、進捗状況は適宜委員会でお知らせください。

委員：概要版の4頁から大山崎町の取り組みが書かれていますが、そこまで読み進める人は少ないと思います。どうしたら読んでもらえるかを考えると、初めの方のページに取り組みがPRされていると読んでもらえるのではないのでしょうか。

事務局：中身に興味を持ってもらい、4頁まで読んでもらえるよう表紙を工夫します。大幅なレイアウト変更は難しいです。

副委員長：ワークショップの住民意見を載せてはどうでしょうか。概要版でも内容が硬過ぎると読まないで、住民意見に対して大山崎町の取り組み状況を書くなど柔らかさを出すのはどうでしょうか。町民にはワークショップを行ったことも知られていないと思います。

事務局：概要版5頁の下にワークショップのご意見を書いており、目立つようにします。また、本編の34頁に具体的な内容があることも記載します。ホームページでの掲載や配布する際はカラー印刷にする予定です。

委員：性的マイノリティの自殺率が5～6倍ということを書けないでしょうか。当事者に話を聞くと、生きづらさを感じており自分を認められないということでした。このような方は誰にも相談できずに生きています。男女共同参画では話題に上がり、計画に盛り込まれていました。このような視点も必要ですので、次回計画でもよいので検討して欲しいです。

事務局：直接的に計画内には書いていませんが、職員研修や人権研修ではLGBTのテーマも取り扱っています。人権全般の取り組みの中に含むこととなりますが、この委員会のご意

見として庁内で共有します。

また、3月議会でパートナーシップ制度の陳情が全会一致採択され、大山崎町の方向性が明らかになっています。5か年の計画にはなかなか盛り込めませんが、町全体として変わっていきそうな雰囲気があります。

委員長：本編75頁からの用語集は、78頁以降の単純集計の後に載せるべきではないでしょうか。

事務局：順番を入れ替えます。

委員：ゲートキーパー等の担い手を育成する計画や取り組みはないのでしょうか。

事務局：京都府で研修を実施しており、町独自では行っていませんが、京都府だけでなく他の団体が実施する研修も大山崎町として周知・案内を行っています。

委員：ゲートキーパー研修は勉強にはなりますが、個人負担としては研修料が高いです。大山崎町として自殺対策を出すのなら、町が自殺対策の担い手を育成することも必要ではないでしょうか。いのちの電話のような一律の施策ではなく、町独自の取り組みも考えなければなりません

事務局：町の福祉部門は様々な相談に対応しています。各課が地域福祉に関連し、経済困窮、LGBT、障がい者等あらゆる属性の相談者が早まらないよう相談に乗ることを日々本職として心がけています。一方でゲートキーパー自体の考え方は、誰もが自殺に陥る可能性があるためより身近な地域で担い手を育てていくというものであり、そちらにも力を入れていく必要があります。住民がやること、町がやることは分けていく必要があります。

委員：大山崎町として引きこもりと自殺の関係については考えていますか。

事務局：関係がないことはないと考えています。最初は不登校から始まり、年を重ねて8050問題へと繋がったり、また引きこもりの方は精神疾患を抱えていることもあります。引きこもりの原因は分かりにくいです。本計画は、様々な事情を抱えた方を取りこぼさないための計画であり引きこもりの支援に特化している訳ではありませんが、引きこもりの方について家族や地域住民から行政に相談があった場合、丁寧な対応が自殺対策にも繋がります。そのため、今回地域福祉計画と自殺対策計画を合体させた経緯があります。

委員：ゲートキーパーは民生委員が対象でしょうか。

事務局：民生委員以外の方も受けられます。

委員：計画は教科書のように、実際には悩みを言いにくい方もいます。個人的にこころや体の悩みの相談を受け、元気づけた経験も多くありますが、正直つらい部分があります。民生委員は平等ではなく、顔の広い方もいる一方で、顔も知られていない地域もあります。本当に困っている人はなかなか支援に繋がらないこともあり、どう対応したらよいのか困っています。

事務局：民生委員は地域で困っている人の最初の窓口として機能しており、自殺対策をしているというのは聞いたことがありません。自殺対策の専門の相談窓口につなげていくことになります。

委員長：自分から相談できない人が取り残され、高齢者の引きこもりにつながる可能性があります。そのような方へのアプローチに加え、地域で支援する方への支援も考える必要があります。

委員：民生委員がいても、関係性がない相手にはなかなか相談しづらいです。例えば、友人のように遊びに誘うことで少し楽になることもありますし、病院に行ければ様々な人とつながれる機会もありますが、それも難しい方もいます。

委員：最近、精神保健福祉について保健所も変わろうとしています。精神保健に課題を抱えた人へのアプローチが求められているので、見直しの際にはそのような視点も必要です。

副委員長：民生委員として命のカプセル等で活動しているのに「誰から聞いたのか」や「何で来た」等と怒られて萎縮してしまう場合もあります。民生委員がやればよいのではなく、民生委員はつなぎ役であり、なり手も少ないため、一緒に民生委員と動いていく意識があるとありがたいです。長年の信頼が構築できている方から民生委員について話してみてもよいかも知れません。

事務局：民生委員の担当地区はホームページや広報に載せていますし、分からなければ福祉課の窓口で尋ねられても問題ありません。精神疾患をお持ちの場合は相談相手が重要です。民生委員はボランティアですので、民生委員が無理なら社会福祉協議会や高齢福祉課等、誰でもいいので話を聞いてあげる人を見つけられればと思います。

(3) その他

4. 閉会